生徒の自己効力を高める指導法の研究
H21 ～学習方法を身につけるための実践を通して～
H22 ～学習意識サイクルの確立に視点をあてて～
H23 ～「わかる」授業の実践を通して～

喜多方市立第三中学校　(代表)校長　渡部登代子
教諭　國分　康広

1　研究の趣旨

平成19年度から実施されている全国学力・学習状況調査において、本校３年生の学力は数学・国語ともに全国や県のレベルから大きく下回っている。また、全校生を対象にした「学習に関するアンケート」の結果や自主学習ノートの取り組み状況からは、勉強に対する意識の低い生徒や、自分が何をどのように、どのくらい勉強すべきなのかがわかっていない生徒が約半数であることもわかった。さらに自己肯定感に関する質問においても低い状態であり、学力とともに本校の大きな課題のひとつといえる。

そこで、やみくもに学習を進めている生徒に、自分に合った効果的な学習方法や学習習慣を身につけさせて自己効力の向上を図ろうと、以下に述べるような仮説を設定し本主題に迫った。本研究では、自己効力を「自分はこれくらいなら頑張れるんだ」という自分に対する期待度と定義した。

学習の仕方がわからない生徒に、学習方法と正しい学習観・学習習慣を身につけさせるために、次の二つの手立てを講じていけば、効果的な学習をすすめることができるようになり、自己効力を高めることができるのではないか。
【手立て１】 各教科でわかる授業を実践する。
【手立て２】 学習方法・学習習慣を身につけさせるために総合学びの時間を工夫する。

2　研究の概要

(1)　わかる授業の実践

①　わかる授業のための工夫（各教科）

学ぶ必要性・必然性を感じさせる工夫や、効果的な習熟の場の設定、まとめ方の工夫など、わかる授業実践のための手立てを教科に応じて講じた。

②　事後研究会の工夫

授業を参観してよかったことや気づいたこと、疑問点などを記入した付箋を活用して事後研究会を行い、部活動をはじめとする放課後の活動時間に大きく影響しないようにした。

(2)　総合学びの時間の工夫

①　学び集会

何の教科をどのように、どのくらい勉強すべきなのかがわかっていない生徒が多いことから、効果的な学習方法や正しい学習観についての学び集会を実施した。

②　全校統一テスト

成功経験で生徒に自信をつけさせたいとの考えから、全校統一テストを実施した。基礎的内容の定着を図ることと生徒に自信をつけさせることがねらいだが、クラス全体で取り組んでいこうとする姿勢を育てることも大きなねらいのひとつとなっている。

③　学習相談

中間テストの結果をもとに、期末テスト前の勉強計画の立て方や学習方法等についての学習相談を実施した。

④　学習マラソン

H22/8/4の読売新聞に掲載されていた読売教育賞の実践を源に、30日間の学習時間を記録累積させていき、事後に自分の学習時間についてふり返らせた。

3　成果と今後の課題

(1)　成果

①　アンケート質問項目「あなたは授業に対して、どのくらいの度合い（10段階）でがんばれますか」の全校生３年間の変容において、６段階以上の肯定的な回答の割合が１年次は全校生の７割程度だったものが、３年次には９割を越えるようになった。また、実際に行っている学習時間においても「30分未満」「全くしない」生徒の割合が少しずつ減ってきており、勉強に対するがんばり度が学習時間にも少なからず反映していた。

②　わかる授業のための工夫について、全職員をあげて同一歩調で取り組むことができた。また、アンケートの結果から本校生が感じているわかりやすい授業・わかりにくい授業についてある程度把握することができ、各教科で今後取り組むべき方向性を明らかにすることができた。

(2)　今後の課題

アンケート質問項目「あなたは授業に対して、どのくらいの度合い（10段階）でがんばれますか」の結果を学力層別にみてみると、中位層においては改善がみられたが、上位層と下位層ではやや減退がみられた。授業の進め方が中位層中心になっていることを表していると思われる。わかりやすい授業について、生徒アンケートを参考に見直していく必要性がある。